科目名	アドバンスレッスン１							年度	2025
英語科目名	Advanced lesson 1							学期	前期
学科・学年	ミュージックアーティスト科 ヴォーカリストコース 2年次	必／選	必	時間数	240	単位数	8	種別※	実習
担当教員	山路浩加、小澤悠生	教員の実務経験		有	実務経験の職種		ミュージシャン、作編曲家、プロデューサー、ディレクター		

【科目の目的】

ヴォーカリストの基本となる声帯・身体の使い方を考察しながら自分自身でコントロールし、表現するスキルを習得していく。

【科目の概要】

デビューをめざしてヴォーカリストとしてのスキルをさらにアップ。オリジナリティを磨くトレーニングを継続し、音楽業界で通用する知識とスキルを実践的に身に付けます。

【到達目標】

A.安定した声を身につけるために、自分の身体の使い方を知る。
B.声の種類３種と、その声を実際に使用しているアーティストを把握する。
C.ベーシックレッスン/アドバンスレッスン「ヴォーカルテクニック」の授業で学んだ実際の楽曲３曲を発声の観点から分析できる。

【授業の注意点】

授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。公共交通機関の影響によるやむを得ない理由をのぞき遅刻や欠席は認めない。授業時数の４分の３以上出席しない者は定期試験を受験することができない。

評価基準＝ルーブリック

ルーブリック 評価	レベル3 優れている		レベル2 ふつう		レベル１ 要努力
到達目標 A	安定した声を身につけるために、自分の身体の使い方を知る		自分の身体の使い方を知る		到達目標Aについてさらなる努力が必要
到達目標 B	声の種類３種と、その声を実際に使用しているアーティストを把握する		声の種類１種と、その声を実際に使用しているアーティストを把握する		到達目標Bについてさらなる努力が必要
到達目標 C	ベーシックレッスン/アドバンスレッスン「ヴォーカルテクニック」の授業で学んだ実際の楽曲３曲を発声の観点から分析できる		ベーシックレッスン/アドバンスレッスン「ヴォーカルテクニック」の授業で学んだ実際の楽曲１曲を発声の観点から分析できる		到達目標Cについてさらなる努力が必要

【教科書】

特になし

【参考資料】

必要に応じて、プリントを配布する

【成績の評価方法・評価基準】

評価基準はルーブリック評価に基づき、試験60%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、授業内発表20%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、平常点20%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)

※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。

科目名	アドバンスレッスン１	年度	2025
英語表記	Advanced lesson 1	学期	前期

回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容		到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	スキル確認	課題を決定	1	ヴォイスチェック	個別ボーカル課題の特定	3	
			2	課題特定	腹式呼吸法のマスタリー		
			3	個別フィードバック	ハミング・リップロール習得		
2	呼吸法復習	呼吸法を習得	1	腹式呼吸	声帯構造の理解	3	
			2	ハミング練習	地声・裏声の識別		
			3	リップロール	ミックスボイスの理解		
3	声帯理解	声帯の仕組みを理解	1	声帯構造	16ビートリズムの習得	3	
			2	地声練習	メトロノーム使用法の把握		
			3	裏声識別	リズム感覚の向上		
4	16beat	リズム練習	1	メトロノーム	ビート別リズムの認識	3	
			2	16ビート練習	身体を使ったビート練習		
			3	リズム同期	リズム理解の深化		
5	各種ビート	リズム練習	1	4ビート習得	地声発声の習得	3	
			2	8ビート理解	声帯筋肉の使い方学習		
			3	身体動作	歌唱における地声利用		
6	地声習得	発声練習	1	地声強化	裏声発声の習得	3	
			2	筋肉練習	声帯の柔軟性向上		
			3	声帯使い	歌唱における裏声利用		
7	裏声習得	発声練習	1	裏声強化	母音子音の発声理解	3	
			2	高音練習	共鳴・発音の技術向上		
			3	声帯伸展	発声の質の改善		
8	発音理解	発声練習	1	共鳴理解	音域拡大メソッド理解	3	
			2	母音発声	長期トレーニング法習得		
			3	子音運用	音域拡大への理解		
9	音域拡大のメソッ	発声練習	1	音域広げ	音域拡大トレーニング継続	3	
			2	計画実施	長期トレーニング計画構築		
			3	持続法習得	継続的声域拡張法実践		
10	音域拡大のメソッ	発声練習	1	音程確認	スケール練習による音程取得	3	
			2	スケール実践	正確なピッチの理解		
			3	正確性重視	音程感覚の習得		
11	音域拡大のメソッ	発声練習	1	オクターブ習得	1オクターブ半スケール実践	3	
			2	度数把握	各音程感覚の確立		
			3	歌唱展開	スケール間隔の理解		
12	音程練習	ピッチ練習	1	復習効果	前期トレーニングの復習	3	
			2	技術定着	総合的理解の確認		
			3	理解深化	前期成果の自己評価		
13	スケール感覚	ピッチ練習	1	振り返り分析	前期全体の振り返り	3	
			2	前期成果	習得スキルの再確認		
			3	成長評価	トレーニング進捗評価		
14	前期復習	全成果の理解	1	進度確認	前期の総合評価	3	
			2	全体評価	練習方法の自己評価		
			3	技術習熟	成長点の確認と計画		
15	まとめ	前期の振り返り	1	成果共有	振り返りを通じた自己理解	3	
			2	総合理解	総括的スキルアセスメント		
			3	練習継続	今後への練習計画を自ら立てることができる		

評価方法：1.小テスト、2.パフォーマンス評価、3.その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等

科目名	アドバンスレッスン１							年度	2025
英語科目名	Advanced lesson 1							学期	前期
学科・学年	ミュージックアーティスト科 ヴォーカリストコース 2年次	必／選	必	時間数	240	単位数	8	種別※	実習
担当教員	青野りえ、小澤悠生	教員の実務経験		有	実務経験の職種		ミュージシャン、作編曲家、プロデューサー、ディレクター		

【科目の目的】

発声法や、ヴォーカルテクニック、音域拡大を目指すトレーニング、表現力を増すトレーニング、リズム感を養うトレーニングに加えて、自分の声の特性を理解した上であらゆるジャンルと現場に適用できる実践力となるボーカリストを育成する。

【科目の概要】

デビューをめざしてヴォーカリストとしてのスキルをさらにアップ。オリジナリティを磨くトレーニングを継続し、音楽業界で通用する知識とスキルを実践的に身に付けます。

【到達目標】

A.minor Keyの1度～5度の範囲内において、音程のコントロールができる。
B.ビブラートやしゃくり、フォールダウンなどにおいて３種類の基礎的なテクニックが習得できる。
C.本番環境において、授業で学んだ技術の安定感がある。

【授業の注意点】

授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。公共交通機関の影響によるやむを得ない理由をのぞき遅刻や欠席は認めない。授業時数の４分の３以上出席しない者は定期試験を受験することができない。

評価基準＝ルーブリック

ルーブリック 評価	レベル3 優れている		レベル2 ふつう		レベル１ 要努力
到達目標 A	minor Keyの1度～5度の範囲内において、音程のコントロールが正確にできる		minor Keyの1度～5度の範囲内において、音程のコントロールができる		到達目標Aについてさらなる努力が必要
到達目標 B	ビブラートやしゃくり、フォールダウンなどにおいて３種類の基礎的なテクニックが習得できる		ビブラートやしゃくり、フォールダウンなどにおいて１種類の基礎的なテクニックが習得できる		到達目標Bについてさらなる努力が必要
到達目標 C	本番環境において、授業で学んだ技術の安定感がある		授業で学んだ技術の安定感がある		到達目標Cについてさらなる努力が必要

【教科書】

特になし

【参考資料】

必要に応じて、プリントを配布する

【成績の評価方法・評価基準】

評価基準はルーブリック評価に基づき、試験60%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、授業内発表20%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、平常点20%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)

※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。

科目名	アドバンスレッスン１	年度	2025
英語表記	Advanced lesson 1	学期	前期

回数	授業テーマ	各授業の目的		授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	曲のアナライズ	聴音技法	1	曲の分析	曲分析ができる	3	
			2	目標設定	目標設定ができる		
			3	課題曲理解	課題曲理解ができる		
2	呼吸の説明	発声法	1	呼吸法説明	呼吸法説明を理解	3	
			2	ブレス位置	ブレス位置を確認		
			3	腹式呼吸	腹式呼吸ができる		
3	ビブラート学習	ビブラート修得	1	ビブラート学	ビブラートを習得	3	
			2	ビブラート練	ビブラート応用ができる		
			3	歌唱応用	歌唱に生かせる		
4	ロングトーン安定	発声法	1	ロングトーン	ロングトーンを安定	3	
			2	安定発声	安定した発声ができる		
			3	持続練習	持続力をつける		
5	発表	発表スキル向上	1	授業発表	授業で発表ができる	3	
			2	表現力UP	自己表現が豊かに		
			3	自己評価	自評能力が向上する		
6	英語発音学習	英語発音習得	1	英語発音	英語発音の理解	3	
			2	課題曲英語	英語の歌唱ができる		
			3	発音練習	発音練習をマスター		
7	裏声の出し方	発声法	1	ファルセット	ファルセットが使える	3	
			2	ミックス声	ミックスボイスを理解		
			3	裏声理解	裏声の使い分けができる		
8	リズムのトレーニ	リズム習得	1	リズム学習	リズム感が養える	3	
			2	表拍裏拍	拍子の理解が深まる		
			3	リズム感覚	リズムトレーニングができる		
9	音域の拡大	発声法	1	音域確認	音域の把握ができる	3	
			2	音域拡張	音域を広げられる		
			3	ヘッド声	ヘッドボイスを使える		
10	発表	効果的発表法	1	授業発表	授業で発表ができる	3	
			2	表現力UP	自己表現が豊かに		
			3	自己評価	自評能力が向上する		
11	曲のアナライズ2	聴音技法	1	曲分析再	曲の深い分析ができる	3	
			2	目標再設	目標再設定が可能		
			3	曲理解再	課題曲の深い理解		
12	声の切り替え学習	発声法	1	地裏切替	地声裏声の切り替え	3	
			2	声のコント	声のコントロールができる		
			3	裏声練習	裏声の適切な使用		
13	抑揚の学習	発声法	1	抑揚学習	抑揚をつけられる	3	
			2	ダイナミクス	ダイナミクスをマスター		
			3	表情の豊かさ	表現力が豊かになる		
14	表現方法学習	オリジナリティ練習	1	オリジナリティ	オリジナリティを発揮	3	
			2	独自表現	独自の表現ができる		
			3	感情表現	感情表現が豊かに		
15	まとめ	期末のパフォーマンス	1	期末試験	期末試験で実力を示す	3	
			2	総合力評	総合的な評価が可能		
			3	学習成果	学習成果を自己評価		

評価方法：1.小テスト、2.パフォーマンス評価、3.その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等

科目名	アドバンスレッスン１							年度	2025
英語科目名	Advanced lesson 1							学期	前期
学科・学年	ミュージックアーティスト科 ヴォーカリストコース 2年次	必／選	必	時間数	240	単位数	8	種別※	実習
担当教員	青木千春	教員の実務経験		有	実務経験の職種		ミュージシャン、作編曲家、プロデューサー、ディレクター		

【科目の目的】

合唱曲を題材とし、ハモリの音感や曲全体の構成を考えながら、ヴォーカリストとしてのスキルの向上を目指す。

【科目の概要】

デビューをめざしてヴォーカリストとしてのスキルをさらにアップ。オリジナリティを磨くトレーニングを継続し、音楽業界で通用する知識とスキルを実践的に身に付けます。

【到達目標】

A.コードネームに沿って、メロディーから1度、3度でのハモリの音感を身につける。
B.他パートの音につられる事がない様に歌う事ができる。
C.配布された譜面に関して、12小節の読譜ができる。

【授業の注意点】

授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。公共交通機関の影響によるやむを得ない理由をのぞき遅刻や欠席は認めない。授業時数の４分の３以上出席しない者は定期試験を受験することができない。

評価基準＝ルーブリック

ルーブリック 評価	レベル3 優れている		レベル2 ふつう		レベル１ 要努力
到達目標 A	コードネームに沿って、メロディーから1度、3度でのハモリの音感を正確に身につける		コードネームに沿って、メロディーから1度、3度でのハモリの音感を身につける		到達目標Aについてさらなる努力が必要
到達目標 B	他パートの音につられる事がない様に歌う事ができる		課題曲を歌唱できる		到達目標Bについてさらなる努力が必要
到達目標 C	配布された譜面に関して、12小節の読譜ができる		配布された譜面に関して、8小節の読譜ができる		到達目標Cについてさらなる努力が必要

【教科書】

特になし

【参考資料】

必要に応じて、プリントを配布する

【成績の評価方法・評価基準】

評価基準はルーブリック評価に基づき、試験60%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、授業内発表20%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、平常点20%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)

※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。

科目名	アドバンスレッスン１	年度	2025
英語表記	Advanced lesson 1	学期	前期

回数	授業テーマ	各授業の目的		授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	初回・パート分け	自己紹介できる	1	自己紹介	自己紹介ができる	3	
			2	曲構成確認	課題曲構成を理解		
			3	パート分け	パート分けができる		
2	譜読み&耳コピ	耳コピができる	1	発声練習	発声練習をマスター	3	
			2	譜読み練習	譜読みがスムーズに		
			3	耳コピー	耳コピの技術向上		
3	リズムで歌唱	リズム感覚を持つ	1	リズム発声	リズムを正確に歌う	3	
			2	リズム習得	パート内協調性向上		
			3	歌唱技術	発表に向けた準備		
4	音確認&分ける	音の確認ができる	1	音確認	チームでの協力作業	3	
			2	パート別練習	総合的な曲理解		
			3	発表準備	リズムとダイナミクス		
5	パート発表	歌唱発表できる	1	チーム練習	有意義な意見交換	3	
			2	分担作業	チーム単位での発表		
			3	曲練習	歌唱技術の向上		
6	チーム練習	グループ活動を学ぶ	1	リズム合わせ	パフォーマンススキル	3	
			2	ダイナミクス	曲解析能力の向上		
			3	意見交換	チームでの問題解決		
7	曲全体確認	意見交換ができる	1	チーム発表	リズム感の養成	3	
			2	歌唱指導	ダイナミクスの精緻化		
			3	パフォーマンス	全体のパフォーマンス		
8	チーム発表	グループ発表できる	1	演技技術	総合的な歌唱力向上	3	
			2	アナライズ	曲通しでの協調性		
			3	チーム分析	授業内での発表力		
9	パフォーマンス学習	パフォーマンス技術を得る	1	改善実施	総合的な振り返り	3	
			2	リズム確認	自己評価能力向上		
			3	ダイナミクス確認	相互評価での洞察		
10	チーム曲分析	楽曲解析ができる	1	パフォーマンス確認	前期の知識整理	3	
			2	全体確認	自己の成長認識		
			3	改善実践	チーム力の向上		
11	全体確認１	総合的な評価を得る	1	パフォ強化	総合的な表現力	3	
			2	合わせ練習	練習計画の立案		
			3	全体練習	最終的な課題把握		
12	全体確認２	技術の確認をする	1	曲通し	合わせの精度向上	3	
			2	クラス内発表	発表への自信		
			3	発表指導	完成度の高い発表		
13	全曲合わせ	曲の総合的な合わせ	1	前期まとめ	授業の振り返り	3	
			2	成果確認	個々の成長評価		
			3	自己評価	グループ評価の反映		
14	授業内発表	授業での発表練習	1	チーム評価	総合的な自己評価	3	
			2	個別指導	チームでのまとめ		
			3	チーム指導	実践能力の確認		
15	前期まとめ	半期の振り返り	1	総合演習	発表の準備完了	3	
			2	発表準備	前期の知識総整理		
			3	公開発表	発表での自信向上		

評価方法：1.小テスト、2.パフォーマンス評価、3.その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等

科目名	アドバンスレッスン１							年度	2025
英語科目名	Advanced lesson 1							学期	前期
学科・学年	ミュージックアーティスト科 ヴォーカリストコース 2年次	必／選	必	時間数	240	単位数	8	種別※	実習
担当教員	青木千春	教員の実務経験		有	実務経験の職種		ミュージシャン、作編曲家、プロデューサー、ディレクター		

【科目の目的】

幅広いジャンルの課題曲をバンドアンサンブルと共に学習することによって、バンドアンサンブルと合唱をより良くするために考察、周りの音をよく聴きながら歌い、最良の合唱となるためのコミュニケーション能力も体得する

【科目の概要】

デビューをめざしてヴォーカリストとしてのスキルをさらにアップ。オリジナリティを磨くトレーニングを継続し、音楽業界で通用する知識とスキルを実践的に身に付けます。

【到達目標】

A.個々が好き勝手に歌う事ではなく個性を抑えつつ他者と協力し合いながら共に一つの楽曲を作り上げる事ができる。
B.ダイナミクスや声質、ウィスパーヴォイスや発音等において、3種類の声質を考えることができる。
C.課題曲3曲を授業内で披露する事ができる。

【授業の注意点】

授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。公共交通機関の影響によるやむを得ない理由をのぞき遅刻や欠席は認めない。授業時数の４分の３以上出席しない者は定期試験を受験することができない。

評価基準＝ルーブリック

ルーブリック 評価	レベル3 優れている		レベル2 ふつう		レベル１ 要努力
到達目標 A	個々が好き勝手に歌う事ではなく個性を抑えつつ他者と協力し合いながら共に一つの楽曲を作り上げる事ができる		他者と協力し合いながら共に一つの楽曲を作り上げる事ができる		到達目標Aについてさらなる努力が必要
到達目標 B	ダイナミクスや声質、ウィスパーヴォイスや発音等において、3種類の声質を考えることができる		ダイナミクスや声質、ウィスパーヴォイスや発音等において、1種類の声質を考えることができる		到達目標Bについてさらなる努力が必要
到達目標 C	課題曲3曲を授業内で披露する事ができる		課題曲1曲を授業内で披露する事ができる		到達目標Cについてさらなる努力が必要

【教科書】

特になし

【参考資料】

必要に応じて、プリントを配布する

【成績の評価方法・評価基準】

評価基準はルーブリック評価に基づき、試験60%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、授業内発表20%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、平常点20%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)

※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。

科目名	アドバンスレッスン１	年度	2025
英語表記	Advanced lesson 1	学期	前期

回数	授業テーマ	各授業の目的		授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	楽器・機材学び	楽器・機材理解	1	楽器紹介	楽器識別スキル習得	3	
			2	機材学習	音色の違い理解		
			3	音の違い	アンサンブル変化認識		
2	音の違い体感	音色差を体験	1	音の変化	前奏・間奏・アウトロー習得	3	
			2	伴奏体験	ダイナミクス応用		
			3	構成理解	楽曲の構成理解		
3	曲の構成学び	曲構成を把握	1	ダイナミクス	リズムキープの習得	3	
			2	感情表現	スタッカート適用能力		
			3	リズム練習	タイの正確な実行		
4	ダイナミクス重点	ダイナミクス練習	1	スタッカート	パフォーマンス力の向上	3	
			2	タイの理解	各パート調和の理解		
			3	リズム保持	音のバランス感覚習得		
5	リズム技法	リズム基礎を習得	1	パフォーマンス	前奏・間奏・アウトロー再認識	3	
			2	表現力向上	ダイナミクスの再強化		
			3	音の確認	リズムキープの高度化		
6	パフォーマンス	ステージ表現練習	1	構成再理解	スタッカート・タイの洗練	3	
			2	強弱の実践	パフォーマンス技術向上		
			3	感情の込め方	音量調整の精度向上		
7	音の確認練習	パート音認識	1	リズム応用	16分音符リズムの習得	3	
			2	表現の深化	リズムトレーニング応用		
			3	確認の徹底	リハーサル技術習得		
8	構成再確認	構成再確認	1	16分音符	前半期まとめの理解	3	
			2	リズム精緻	自己評価の向上		
			3	リハーサル	チームとしての成長		
9	ダイナミクス再学	ダイナミクス深掘り	1	まとめ練習	パフォーマンスの再磨き	3	
			2	知識定着	各パートの調和性向上		
			3	技術確認	演奏の連携性強化		
10	リズム応用練習	リズム進行練習	1	成果発表	表現のバリエーション習得	3	
			2	前期総括	ダイナミックレンジの拡大		
			3	自己評価	リズム精度の向上		
11	パフォーマンス応	パフォーマンス応用	1	チーム評価	ステージパフォーマンスの自信	3	
			2	知識整理	聴音能力の向上		
			3	技術向上	演奏時の応用力強化		
12	部分音の確認	各音の確認重点	1	表現充実	複雑リズムの理解	3	
			2	リズム完璧	リズムトレーニングの応用		
			3	全体練習	効果的リハーサルの実施		
13	16分リズム練習	16分音符トレーニング	1	パフォ強化	総合的理解の達成	3	
			2	音の調和	自己評価の再確認		
			3	構成確認	協力性のさらなる向上		
14	全体リハーサル	総合的リハーサル	1	ダイナミクス	演奏技術の総合評価	3	
			2	表現磨き	音楽的表現の洗練		
			3	リズム強化	表現力の最終調整		
15	半期振り返り	前期の反省・評価	1	合奏調整	パート間バランスの完全習得	3	
			2	成果共有	総合演奏の完成度チェック		
			3	総合演習	全体としての成果発表		

評価方法：1.小テスト、2.パフォーマンス評価、3.その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等

科目名	アドバンスレッスン１							年度	2025
英語科目名	Advanced lesson 1							学期	前期
学科・学年	ミュージックアーティスト科 ヴォーカリストコース 2年次	必／選	必	時間数	240	単位数	8	種別※	実習
担当教員	Gt:早川治 / Key:藤田美保	教員の実務経験		有	実務経験の職種		ミュージシャン、作編曲家、プロデューサー、ディレクター		

【科目の目的】

９種類のキーにおいてコード系楽器の基本的な演奏技術を習得する。。その後、楽譜の読解能力を向上させ、音感やハーモニー感覚を発展させるために、関連する実践的な音楽知識やコードについても習得する。

【科目の概要】

デビューをめざしてヴォーカリストとしてのスキルをさらにアップ。オリジナリティを磨くトレーニングを継続し、音楽業界で通用する知識とスキルを実践的に身に付けます。

【到達目標】

A.　９種類のKeyにおいて、コード系楽器の基礎的な奏法を身につける。
B・９種類のKeyにおいて、楽譜を読む力をつけたうえで、音感やハーモニー感覚を向上させる。
C・９種類のKeyにおいて、コードなど実践に役立つ音楽的知識を身につける。

【授業の注意点】

授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。公共交通機関の影響によるやむを得ない理由をのぞき遅刻や欠席は認めない。授業時数の４分の３以上出席しない者は定期試験を受験することができない。

評価基準＝ルーブリック

ルーブリック 評価	レベル3 優れている		レベル2 ふつう		レベル１ 要努力
到達目標 A	９種類のKeyにおいて、コード系楽器の基礎的な奏法を身につける		４種類のKeyにおいて、コード系楽器の基礎的な奏法を身につける		到達目標Aについてさらなる努力が必要
到達目標 B	９種類のKeyにおいて、楽譜を読む力をつけたうえで、音感やハーモニー感覚を向上させる		４種類のKeyにおいて、楽譜を読む力をつけたうえで、音感やハーモニー感覚を向上させる		到達目標Bについてさらなる努力が必要
到達目標 C	９種類のKeyにおいて、コードなど実践に役立つ音楽的知識を身につける		４種類のKeyにおいて、コードなど実践に役立つ音楽的知識を身につける		到達目標Cについてさらなる努力が必要

【教科書】

特になし

【参考資料】

必要に応じて、プリントを配布する

【成績の評価方法・評価基準】

評価基準はルーブリック評価に基づき、１４回目または１５回目にて授業内発表を行い、その巧拙を判定する。
60%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、
授業後に提出するレポートによる平常点40%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)

※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。

科目名	アドバンスレッスン１	年度	2025
英語表記	Advanced lesson 1	学期	前期

回数	授業テーマ	各授業の目的		授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	パワーコード1	パワーコード習得	1	パワーコード導入	パワーコード演奏ができる	3	
			2	コード弾き課題	1年次技術の復習		
			3	技術復習1	リズム感の向上		
2	パワーコード2	テクニック復習	1	パワーコード応用	パワーコード応用ができる	3	
			2	コード進行演奏	テクニックの確認		
			3	技術復習2	演奏の自信構築		
3	メジャーコード	メジャーコード習得	1	メジャーコード基礎	メジャーコードの把握	3	
			2	5弦ルート練	5弦6弦ルート理解		
			3	転回形習得1	転回形の実践		
4	マイナーコード	マイナーコード習得	1	マイナーコード基礎	マイナーコードの理解	3	
			2	6弦ルート練	異なる運指での演奏		
			3	転回形習得2	音の流れの認識		
5	アドリブ初級	ペンタアドリブ1	1	ペンタトニック基礎	ペンタトニックの利用	3	
			2	スローテンポ練	アドリブ基本技法		
			3	アドリブ導入1	スローテンポ対応		
6	アドリブ中級	ペンタアドリブ2	1	ペンタトニック応	ペンタトニックの応用	3	
			2	リズム変更伴奏	即興演奏の向上		
			3	アドリブ導入2	リズム変化の実践		
7	特殊コード1	演奏技術向上	1	min7(♭5)進行	min7(♭5)活用ができる	3	
			2	コード進行演習1	複雑なコード進行対応		
			3	アレンジ課題1	アレンジ能力の向上		
8	特殊コード2	演奏技術向上	1	7(9)コード進行	7(9)コード応用ができる	3	
			2	コード進行演習2	発展的アレンジ技法		
			3	アレンジ課題2	クリエイティブな表現		
9	分数コード	演奏技術向上	1	分数コード理解	分数コードの正確性	3	
			2	テンションコード1	テンションコード理解		
			3	正確弾き課題	複数コード演奏能力		
10	ヴォイシング	演奏技術向上	1	ヴォイシング理解	ヴォイシングの実践	3	
			2	自己響き作成	オリジナリティの追求		
			3	テンションコード2	個性的なサウンド創出		
11	課題曲コード進行	音楽理論の理解	1	日本曲コード1	日本曲コード進行理解	3	
			2	アップテンポ伴奏	アップテンポへの対応		
			3	コード進行習熟	曲の構造把握		
12	課題曲コード進行	音楽理論の理解	1	日本曲コード2	日本曲応用演奏能力	3	
			2	アップテンポ応用	速いテンポの演奏技術		
			3	表現力向上	流暢な演奏の習得		
13	課題曲コード進行	音楽理論の理解	1	日本曲コード3	リズムの多様性	3	
			2	左右手リズム	コンピング技術の向上		
			3	コンピング応用	即興とアレンジの融合		
14	リズムトレーニン	演奏技術向上	1	総まとめ実施1	総合的な演奏能力	3	
			2	リズム分解応用	右手左手の独立性		
			3	自由演奏展開	高度なリズムの理解		
15	まとめ	総復習と試験	1	総まとめ実施2	試験曲の演奏能力	3	
			2	全体試験準備	総合評価への対応		
			3	曲演奏試験	表現力の最終確認		

評価方法：1.小テスト、2.パフォーマンス評価、3.その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等

科目名	アドバンスレッスン１							年度	2025
英語科目名	Advanced lesson 1							学期	前期
学科・学年	ミュージックアーティスト科 ヴォーカリストコース 2年次	必／選	必	時間数	240	単位数	8	種別※	実習
担当教員	小野正利・早川咲・柿崎光・青木千春	教員の実務経験		有	実務経験の職種		ミュージシャン、作編曲家、プロデューサー、ディレクター		

【科目の目的】

課題曲に基づいて基本的な歌唱力を身につけ、オリジナリティを磨き、自分自身をヴォーカリストとして表現できるスキルを構築する。

【科目の概要】

デビューをめざしてヴォーカリストとしてのスキルをさらにアップ。オリジナリティを磨くトレーニングを継続し、音楽業界で通用する知識とスキルを実践的に身に付けます。

【到達目標】

A.課題曲３曲に関して、基礎的歌唱力を体得している。
B.課題曲３曲に関して、ヴォーカリストとしての自己を発信できる状態を作っている。
C.卒業後を想定して、歌唱法に、再現性と継続性が見込める。

【授業の注意点】

授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。公共交通機関の影響によるやむを得ない理由をのぞき遅刻や欠席は認めない。授業時数の４分の３以上出席しない者は定期試験を受験することができない。

評価基準＝ルーブリック

ルーブリック 評価	レベル3 優れている		レベル2 ふつう		レベル１ 要努力
到達目標 A	課題曲３曲に関して、基礎的歌唱力を体得している		課題曲１曲に関して、基礎的歌唱力を体得している		到達目標Aについてさらなる努力が必要
到達目標 B	課題曲３曲に関して、ヴォーカリストとしての自己を発信できる状態を作っている		課題曲１曲に関して、ヴォーカリストとしての自己を発信できる状態を作っている		到達目標Bについてさらなる努力が必要
到達目標 C	卒業後を想定して、歌唱法に再現性と継続性が見込める		楽曲のメロディ譜面を書くことができる		到達目標Cについてさらなる努力が必要

【教科書】

特になし

【参考資料】

必要に応じて、プリントを配布する

【成績の評価方法・評価基準】

評価基準はルーブリック評価に基づき、試験40%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、授業内発表30%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、平常点30%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)

※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。

科目名	アドバンスレッスン１	年度	2025
英語表記	Advanced lesson 1	学期	前期

回数	授業テーマ	各授業の目的		授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	オリエンテーショ	プロジェクト理解	1	オリエンテーション	部屋分けを理解する	3	
			2	部屋わけ確定	マイプロジェクト選定		
			3	曲決定支援	課題曲選定の自立性		
2	曲指導１回目	歌唱法の体得	1	個別指導計画	基本的な歌唱技術	3	
			2	技術向上指導	個別の発展課題把握		
			3	表現力促進	パーソナルゴール設定		
3	曲指導２回目	歌唱法の体得	1	指導の進捗確認	中級歌唱技術の習得	3	
			2	歌唱力向上	独自の表現スタイル開発		
			3	感情表現練習	定期的な進捗評価の理解		
4	曲指導３回目	歌唱法の体得	1	セルフプロデュース	公開パフォーマンスの準備	3	
			2	新曲選定援助	効果的な自己評価能力		
			3	創造性開発	構成的な反省能力の向上		
5	曲指導４回目	歌唱法の体得	1	個別指導再開	セルフプロデュースの基礎	3	
			2	演奏力強化	新しい音楽プロジェクト計画		
			3	音楽解釈深化	音楽選定の戦略的アプローチ		
6	中間発表	楽曲発表	1	楽曲理解促進	発展的な歌唱技術	3	
			2	表現力評価	より深い音楽理解		
			3	ステージ演出学	表現力のさらなる強化		
7	ブラッシュアップ	練習計画の立案	1	進捗確認演習	中間パフォーマンスの実施	3	
			2	歌唱技術確認	発表に対する自己反省		
			3	パフォーマンス評価	改善点の特定と修正計画		
8	新プロジェクト案	セルフプロデュース	1	フィードバック応用	高度なセルフプロデュース	3	
			2	演奏ブラッシュアップ	新たな目標曲の完成度		
			3	表現力修正	音楽表現の創造性		
9	曲指導５回目	歌唱法の体得	1	セルフプロデュース	上級歌唱技術の習得	3	
			2	プロジェクト改善	パフォーマンスの洗練度		
			3	創意工夫指導	個別指導に基づく進化		
10	曲指導６回目	歌唱法の体得	1	演奏指導の継続	最終発表のための準備	3	
			2	技術精度向上	全体的なパフォーマンス評価		
			3	音楽表現拡張	修正点の効果的な統合		
11	曲指導７回目	歌唱法の体得	1	中間進捗評価	前期の総合的な理解	3	
			2	発表準備指導	プロジェクトの完成		
			3	ステージパフォーマンス	自己評価の深化と共有		
12	曲指導８回目	歌唱法の体得	1	評価とフィードバック	プレゼンテーションの完成	3	
			2	発表会対策	最終評価のための自己分析		
			3	演奏技術の洗練	集約されたスキルの展示		
13	最終発表	楽曲発表	1	最終ブラッシュアップ	フィードバックの積極的活用	3	
			2	前期の総括	完成度の高い演奏実現		
			3	成果物の検証	最終目標への達成感		
14	反省&最終調整	ブラッシュアップ	1	評価基準設定	前期成果の自己評価	3	
			2	総合評価準備	個別成長の振り返り		
			3	自己評価促進	学習過程の総括		
15	まとめ	前期の総括	1	プロジェクト完成度	次期への意欲向上	3	
			2	プレゼンテーション能力	プロジェクト全体のレビュー		
			3	まとめとフィードバック	今後への展望を考えることができる		

評価方法：1.小テスト、2.パフォーマンス評価、3.その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等

科目名	アドバンスレッスン１							年度	2025
英語科目名	Advanced lesson 1							学期	前期
学科・学年	ミュージックアーティスト科 ヴォーカリストコース 2年次	必／選	必	時間数	240	単位数	8	種別※	実習
担当教員	河原レオ・南慶樹	教員の実務経験		有	実務経験の職種		ミュージシャン、作編曲家、プロデューサー、ディレクター		

【科目の目的】

3つの異なる音楽ジャンルに合わせた作曲技術を学び、さらに編曲技術を習得する。DAWデータ内の任意のトラックに少なくとも1つのエフェクトを適用し、オーディションやコンテストに参加することで、さらにスキルアップを目指す。

【科目の概要】

デビューをめざしてヴォーカリストとしてのスキルをさらにアップ。オリジナリティを磨くトレーニングを継続し、音楽業界で通用する知識とスキルを実践的に身に付けます。

【到達目標】

A.　３種類のジャンルに合わせた作曲の技術を身につけること
B・３種類のジャンルに合わせた編曲の技術を身につけること
C・DAWデータの任意のトラックに最低１種類のエフェクトを適用し楽曲を提出できる

【授業の注意点】

授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。公共交通機関の影響によるやむを得ない理由をのぞき遅刻や欠席は認めない。授業時数の４分の３以上出席しない者は定期試験を受験することができない。

評価基準＝ルーブリック

ルーブリック 評価	レベル3 優れている		レベル2 ふつう		レベル１ 要努力
到達目標 A	３種類のジャンルに合わせた作曲の技術を身につける		１種類のジャンルに合わせた作曲の技術を身につける		到達目標Aについてさらなる努力が必要
到達目標 B	３種類のジャンルに合わせた編曲の技術を身につけること		１種類のジャンルに合わせた編曲の技術を身につけること		到達目標Bについてさらなる努力が必要
到達目標 C	DAWデータの任意のトラックに最低１種類のエフェクトを適用し楽曲を提出できる		DAWソフトにてプラグインエフェクトをかけることができる		到達目標Cについてさらなる努力が必要

【教科書】

特になし

【参考資料】

必要に応じて、プリントを配布する

【成績の評価方法・評価基準】

評価基準はルーブリック評価に基づき、１４回目または１５回目にて授業内発表を行い、その巧拙を判定する。
60%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、
授業後に提出するレポートによる平常点40%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)

※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。

科目名	アドバンスレッスン１	年度	2025
英語表記	Advanced lesson 1	学期	前期

回数	授業テーマ	各授業の目的		授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	課題⑥基礎	基礎理解	1	課題曲⑥紹介	課題曲⑥の概要理解	3	
			2	基本制作法	基本的構造把握		
			3	楽曲構造	メロディの要素認識		
2	課題⑥旋律	旋律作成	1	課題曲⑥分析	課題曲⑥の解析技法習得	3	
			2	コード進行	リズムの基礎知識		
			3	リズム感得	ハーモニーの理解深化		
3	課題⑥和声	和声適用	1	課題曲⑥練習	楽曲のメロディ作成能力	3	
			2	メロディ作成	楽曲背景知識習得		
			3	アレンジ法	楽器役割の理解		
4	課題⑥リズム	リズム設計	1	課題曲⑥応用	楽曲制作の全体像把握	3	
			2	楽器選定	コード構築能力習得		
			3	ダイナミクス	アレンジメント基礎		
5	課題⑥完成	初稿完成	1	課題曲⑥発表	楽曲の完成形態理解	3	
			2	評価方法	楽曲評価基準知識		
			3	フィードバック	改善点の特定能力		
6	課題⑦導入	テーマ性	1	課題曲⑦紹介	課題曲⑦の概要理解	3	
			2	再構築法	応用的構造把握		
			3	エフェクト利用	複雑リズムの解析能力		
7	課題⑦テクニック	楽器配置	1	課題曲⑦分析	和声の拡張知識習得	3	
			2	録音技法	テクスチャー理解強化		
			3	ミックス調整	楽曲の変化・発展認識		
8	課題⑦構造	曲構成	1	課題曲⑦練習	複雑メロディ作成能力	3	
			2	進行変更	ブリッジ部分構築能力		
			3	サウンド選択	アレンジの応用知識		
9	課題⑦編曲	編曲進行	1	課題曲⑦応用	楽曲発表の準備能力	3	
			2	和声技法	楽曲の詳細な評価技法		
			3	テクスチャー	音楽制作の最終調整能力		
10	課題⑦評価	自己評価	1	課題曲⑦発表	リズムとメロディ統合	3	
			2	曲の展開法	楽曲のテーマ設定能力		
			3	ブリッジ作成	楽曲の変更・修正技法		
11	課題⑧発展	スキル向上	1	課題曲⑧紹介	楽曲全体の流れ理解	3	
			2	音域活用	リスニング技法習得		
			3	モチーフ展開	楽曲の構造変更能力		
12	課題⑧高度技法	テクニカルな作曲	1	課題曲⑧分析	楽曲の表現力向上策	3	
			2	実践的評価	音色選択の基本知識		
			3	リスニング会	楽器の演奏法理解		
13	課題⑧楽器編	音色選択	1	課題曲⑧改善	曲構造の創造的変更能力	3	
			2	音色調整	アレンジの最終調整		
			3	エディット技法	MIDI編集技術習得		
14	課題⑧マスタリン	DAW技術	1	課題曲⑧完成	マスタリングの基礎	3	
			2	最終ミックス	音楽のジャンル理解		
			3	マスタリング	コードの応用技法		
15	課題⑧公開	総仕上げ	1	課題曲評価	リミックス技術習得	3	
			2	ポートフォリオ	楽曲プレゼンテーション技法		
			3	フィイナルレビュー	レビューを通じて今後への展望が把握できる		

評価方法：1.小テスト、2.パフォーマンス評価、3.その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等

科目名	アドバンスレッスン１							年度	2025
英語科目名	Advanced lesson 1							学期	前期
学科・学年	ミュージックアーティスト科 ヴォーカリストコース 2年次	必／選	必	時間数	240	単位数	8	種別※	実習
担当教員	南慶樹	教員の実務経験		有	実務経験の職種		ミュージシャン、作編曲家、プロデューサー、ディレクター		

【科目の目的】

デビューを目指して各楽器の演奏と音楽制作のスキルを向上させ、オリジナリティを磨くトレーニングを継続する。。同時に、各種のオーディションやライブ活動などに積極的に参加し、音楽業界で通用する幅広いスキルと知識を身につけることを目指す。

【科目の概要】

デビューをめざしてヴォーカリストとしてのスキルをさらにアップ。オリジナリティを磨くトレーニングを継続し、音楽業界で通用する知識とスキルを実践的に身に付けます。

【到達目標】

A.絶対音感と相対音感について理解する
B.相対音感に基づくハーモニーの感覚が理解できる
C.移動ド唱法が理解できる

【授業の注意点】

授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。公共交通機関の影響によるやむを得ない理由をのぞき遅刻や欠席は認めない。授業時数の４分の３以上出席しない者は定期試験を受験することができない。

評価基準＝ルーブリック

ルーブリック 評価	レベル3 優れている		レベル2 ふつう		レベル１ 要努力
到達目標 A	絶対音感と相対音感について深く理解する		絶対音感と相対音感についてやや理解する		到達目標Aについてさらなる努力が必要
到達目標 B	相対音感に基づくハーモニーの感覚が深く理解できる		相対音感に基づくハーモニーの感覚が理解できる		到達目標Bについてさらなる努力が必要
到達目標 C	移動ド唱法で実演ができる		移動ド唱法が理解できる		到達目標Cについてさらなる努力が必要

【教科書】

特になし

【参考資料】

必要に応じて、プリントを配布する

【成績の評価方法・評価基準】

評価基準はルーブリック評価に基づき、授業内課題、レポートなどで行う。

※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。

科目名	アドバンスレッスン１	年度	2025
英語表記	Advanced lesson 1	学期	前期

回数	授業テーマ	各授業の目的		授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	音感養成	課題の理解	1	楽譜読解	楽譜基礎が読める	3	
			2	音感練習	絶対音感が身につく		
			3	歌唱エクササイズ	簡単な歌が歌える		
2	音感養成	エクササイズ	1	楽譜応用	楽譜読解が早くなる	3	
			2	音感向上	絶対音感が認識できる		
			3	即興歌唱	複数の歌を覚える		
3	音感養成	エクササイズ	1	楽譜熟練	楽譜の詳細が理解できる	3	
			2	絶対音感	絶対音感が正確になる		
			3	歌による学習	歌で表現ができる		
4	音感養成	エクササイズ	1	楽譜深化	楽譜がすらすら読める	3	
			2	音感自然化	絶対音感で即応できる		
			3	表現力強化	異なるジャンルを歌う		
5	音感養成	エクササイズ	1	楽譜洞察	楽譜が完璧に読める	3	
			2	音感確立	絶対音感を自在に使う		
			3	創造的表現	感情を込めて歌える		
6	音感養成	エクササイズ	1	楽譜解釈	音程の差を聞き分ける	3	
			2	絶対音感精緻	正確な音程を歌える		
			3	歌との一体化	音程トレーニングができる		
7	音感養成	エクササイズ	1	楽譜技術	音程を完璧に認識する	3	
			2	音感養成	複雑な音程を理解する		
			3	表現の自由度	音程トレーニングを自主的に行う		
8	音感養成	エクササイズ	1	楽譜の洗練	音程の正確な認識ができる	3	
			2	音感の研ぎ澄まし	独特な音程を識別できる		
			3	感情表現と音感	音程を用いた即興ができる		
9	音感養成	エクササイズ	1	読譜力向上	難易度の高い音程が分かる	3	
			2	音感自在化	音程を使った表現が豊かになる		
			3	創造的な歌唱	音程を活かした独自の歌が歌える		
10	音感養成	エクササイズ	1	楽譜の完全理解	音程の微妙な変化を感じ取る	3	
			2	音感と即興	音程を応用した演奏ができる		
			3	歌の内面化	音程で感情を伝えられる		
11	音感養成	エクササイズ	1	音読の達人	音程聞き分けの精度が上がる	3	
			2	音感の極致	音程を用いた創作ができる		
			3	歌と即興結合	音程とリズムが融合できる		
12	音感養成	エクササイズ	1	音程理解	音程を自由に操れる	3	
			2	音程認識	複雑な音程変化を捉えられる		
			3	聞き取り強化	音程に基づいた即興創作		
13	音程聴音	課題の理解	1	音程の比較	音程を活かした独自表現	3	
			2	相対音感	音程聞き分けのスキル向上		
			3	聞き取り練習	音程に敏感になる		
14	音程聴音	エクササイズ	1	音程感知	音程で感情を表現する	3	
			2	音程記憶	音程を巧みに使いこなす		
			3	聞き取り精度向上	音程の微細な違いを識別		
15	音程聴音	エクササイズ	1	音程の応用	音程を使ったアレンジができる	3	
			2	音程と表現	音程を完全に理解できる		
			3	制限時間内での聞き取り	制限時間内での聞き取りができる		

評価方法：1.小テスト、2.パフォーマンス評価、3.その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等